

なめがたでキラリ輝く「ひと」

行方オフィスは、常陽銀行麻生支店の向かい側にあります。ウェブにて行方の魅力を随時発信中！



みやざき かずひろ 宮崎 和洋さん (32歳)

Profile

株式会社フューチャーリンクネットワーク行方オフィス（まいぶれ編集部行方チーム）勤務。大学の歴史学科で日本史や民俗学を学んだ。郷土文化に詳しく、行方市麻生郷土文化研究会理事も務める。麻生在住。

行方の郷土文化に熱い思いを抱く宮崎和洋さんは、官民協働事業として平成24年にスタートした行方市ポータルサイト「なめがた日和」で、お店の情報やまちの話題の他、地域の歴史や文化などを日々発信しています。宮崎さんが地域の歴史に興味を持ったのは小学生のとき。ま

「生まれ育った下淵区の山車の人形が自分の原点です。これまで、地域の歴史についてさまざまなことを調べてきました。高校では、神社の宮司の息子さんと仲が良かったので、日本の神話について教えてもらうなど興味は尽きませんでした」と宮崎さん。進学した大学の歴史学科で日本史や民俗学を学び、卒業論文では、玉造に伝わる神話「夜刀神やしののかみに関する一考察」を書き上げました。

「もっと勉強したい、日本各地も見て回りたい」と思った宮崎さんは、大学院に進み日本古代史を学び、卒業後はいったん就職したものの、マイカーで日本一周の旅へ。各地の風土や文化について見聞を広めました。「歴史学というのは本に書き残されていること。民俗学というのは口伝や聞き込み、人々が話したこと。私は人と話すのが好きなので、日本一周の旅で多くの方と触れあい、日本の民俗を肌で感じる事ができました」。

旅を終え、就職を考えたととき、出会いがあったのが、現在の勤務先でした。「自宅の近くにインターネット関連の会社ができている！」と早速入社。現在、行方市ポータルサイト「なめがた日和」で「なめがたヒストリー」というコンテンツを担当しています。「これからの時代を担う子どもたちが『行方市は昔からの歴史が続く、素晴らしいところなんだ』と誇りを持ってほしいと思います。情報発信しています。歴史は地域の実績。ここには何も無いのではなく、地域史が積み重なってきたものの上に『今』があるのです」。

一昨年、麻生地区が「千年村プロジェクト」に認証されました。これは千年以上にわたり自然災害等乗り越え、人々の生活が持続的に営まれてきたということです。「私も、地元に住んでいるからこそできることを続けていきたいです。なめがた日和で地域の情報を発信することはもちろん、大麻神社例大祭について書かれた文献が少ないので、今後研究してみたいですね」。

宮崎さんの夢は、これからも続いていきます。

行方オフィスで働く仲間たち



スマホでもっと楽しめる！市報なめがた デジタルブック！

▼市報に登場するこのマークに注目！



市報に掲載されていない画像や動画をご覧いただけます。右のQRコードから無料アプリ(カタボケ)でご覧ください。



デジタルブックは10言語に対応



※対応言語：日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語、タイ語、ポルトガル語（ブラジル）、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語（※ベトナム語は音声読み上げ機能には対応していません。）

「市報なめがた」は、公共施設等にも配置しています。

【市報配布に関するお問い合わせ】

総務課（麻生庁舎） ☎ 0299-72-0811

スマートフォンをお持ちの方は、こちらから市公式ホームページをご覧いただけます。

